

巻頭言

コロナ禍の中でも強い気持で

理事長 市澤 静山

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

書象会の皆様にとって、この一年が爽りのある良い年であるよう祈ります。健康で平安な日々を過されまよう願っています。書象展は今年が六十回展となります。記念して「張廉卿・宮島詠士・上條信山師生展」を開催いたします。書象会のルーツとなる三先生の精神性の高い書を世に示し、皆様にはじっくりと鑑賞していただきたいと思っております。この企画展示では広い壁面を占用するため、審査員と無鑑査会員の方々には作品サイズを小さくして半切の大きさとなります。この点ご理解いただきたく存じます。作品は小さいが、気持を強く持ち集中して優れた作品を仕上げてくださいと願っています。書象展開催に合わせて学生展や支部長講習会等のイベントは従来通り実施する予定です。

その他の書象会の活動としては書象誌は今まで通りであることは勿論ですが、展覧会部も研修部も例年同様の開催を計画しています。ところが、新型コロナウイルス感染症の状況は昨年より感染力が強まっています。この先ウイルスが拡散するのか、収束するのかは全く分かりません。テレビでは医学関係者・政府・自治体等から感染防止策を報じられますが、書象会では様々な情報を考慮しながらコロナ対策には万全を期して行います。「三密」を避け、マスク類の着用、消毒剤の使用等、昨年以上に注意、徹底を計ります。しかし行事の実施の可否については、感染状況により判断をしなければなりません。理事長、副理事長会議において検討をし決定いたします。多くの行事が予定通り実施可能となり、会員の皆様には喜んで参加していただけることを期待します。

一月二十四日には書象会恒例の新年会を予定していましたが、コロナ禍のため中止といたしました。それに伴い「総会」は書面による議決をお願いすることになります。また当日開催予定の「授号」は立派な会場での授号式を行うことができません。各支部において指導の先生から授号証を授与されることとなります。簡便な方法で行いますことをご理解下さい。

二〇二〇年 改組 新第七回日展「印泥畫沙」

日展特別会員 市澤静山書



世情、外出自粛により在宅時間が多くなっているようです。筆を執り書象誌の課題や古典の臨書をしてみましょう。書き進むにつれ集中度が高まって来ます。憂鬱な気持は消えてゆきます。煩わしさから解放されて、真の自己の精神が筆を運ぶようになります。これが書の素晴しさです。皆様の心のこもった競書作品や展覧会作品を拝見できることを楽しみにしています。